

# 新図書館に本型アート

## 新徳山駅ビル 自閉症男性が原画



周南市の障害福祉サービス事業所「周南あけぼの園」で創作活動に取り組む徳原さん(31)が、2月3日にオープンする新徳山駅ビルの図書館に展示される本型アートの原画を制作した。アートは縦5枚、横約18枚の大きさで、駅ビルのシンボルとなる。徳原さんは「駅ビルを訪れる多くの人に見てもらいたい」と話している。

(佐々木道哉)



●本型アートの原画の一部(周南市提供) ●アトリエで創作に励む徳原さん

### 「本のまち」テーマに10種類

自閉症の障害を持つ徳原さんは、同園の「アトリエnon」に所属。子供の頃から絵を描くのが好きで、風景や草花、動物などをモチーフにした鮮やかな色彩の作品が人気を呼び、同園のポストカードやカレンダーを手がけている。2011年から4年連続で二科展デザイン部で準入選するなど数々の受賞歴がある。

図書館を核施設とする駅ビル(鉄骨3階建て、延べ約5250平方メートル)は、レンタル大手「TSUTAYA(ツタヤ)」を展開するカルチュア・コンビニエンス・クラブ(CCC)が指定管理者となり、運営する。

同様にCCCが運営する佐賀県武雄市や神奈川県海老名市の図書館では、「本に囲まれた空間」を演出するため、背の高い書棚を配置。書棚の手の届かない部分には紙製のダミー本などを並べている。

徳山駅ビルの図書館にも、1階と2階の吹き抜け部分に高さ8・8メートル、幅約24メートルの巨大な書棚が設置される。

市は「他の図書館にない特

色を出したい」とCCCと協議。繊維強化プラスチック製のダミー本の背表紙に絵を描いた本型アートを制作し、展示することにした。書棚のほぼ上半分にダミー本を並べ、全体で縦5枚、横約18枚のアートを作り出す。

「地元で活躍するアーティストに描いてもらいたい」と、徳原さんに原画の制作を依頼。「本のまち」をテーマに建物や人物などを描き込み、約1か月かけて10種類の原画を完成させた。現在、デザイナーがダミー本一つ一つに原画を模写する作業を進めている。

徳原さんはこのほかにも、駅ビル2階の壁面に徳山駅の歴史を題材にした絵を描く予定。3階には、「アトリエnon」に所属する藤村義孝さん(46)の絵画も展示される。

徳原さんは「描くのは大変だったけど、楽しかった」と振り返る。同園支援員の小川矩寛さん(35)は「2人の作品が駅ビルに展示される日が待ち遠しい。園の活動を多くの人に知ってもらいたい機会にもなる」と喜んでいる。